

論文タイトル

進行性の肺 NUT 癌に対して免疫チェックポイント阻害
剤併用化学療法を行った一例

小山 新太郎， 田中 寿志， 當麻 景章， 牧口 友紀， 坂
本 博昭， 田坂 定智．

弘前大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座

要旨

31歳女性。喘鳴を主訴に近医を受診した。経気管支生検やPET-CTで肺門部扁平上皮癌（cT2aN2M1c, stage IVB）、WHSC1L1-NUTM1融合遺伝子陽性と診断された。骨転移による腰背部痛で緊急入院し、カルボプラチン、アルブミン懸濁型パクリタキセル、ペムブロリズマブ療法を開始した。腫瘍は一旦縮小したが2コース目開始前に再増大と全身状態悪化し、治療開始から一カ月で死亡した。肺原発 Nuclear protein in testis (NUT) 癌は予後不良であり文献的考察を交えて報告する。

キーワード：NUT 癌， WHSC1L1-NUTM1 融合遺伝子， 化学療法， 免疫チェックポイント阻害薬

Keyword: NUT carcinoma, WHSC1L1-NUTM1 fusion, chemotherapy, immune checkpoint inhibitor.

短縮タイトル：進行した肺原発 NUT 癌